

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3070104082		
法人名	社会福祉法人 きしゅう福祉会 ささゆり		
事業所名(ユニット名)	グループホーム ささゆり (北ユニット)		
所在地	和歌山県和歌山市田尻496-4		
自己評価作成日	平成22年4月26日	評価結果市町村受理日	平成22年7月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokohyo-wakayama.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3070104082&amp;SCD=320">http://www.kaigokohyo-wakayama.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3070104082&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	平成22年5月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームは主要道路から近く、静かで落ち着ける住宅街にあります。目の前には名草山や叡山神社などがあり、季節感が感じられる環境にあります。広い敷地の中には家庭菜園をする場所もあり、収穫した野菜を調理して楽しんだり、犬と触れ合う機会があったりと、あたたかく家庭的な雰囲気を大切にしています。お互いを思いやるやさしい心で利用者の立場に立ち、型にはめられない支援を行い、その人らしい個性豊かな生活が送れるよう、そして最後はここに住んでよかったと心より思っていたいただけるような施設を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

静かで緑の多い環境の中で利用者はゆったりと安心して生活されている。代表者の過去の介護経験から、理想のホームを作りたいと創設された思いのこもったホームである。代表者と職員及び、職員間の意思疎通が十分になされているため、職員は何事にも積極的に取り組む事ができ、また、その事が利用者の処遇によく反映されている。事業所と利用者の良好な人間関係・信頼関係が築き上げられており、「老後はここで過ごしたい」と職員自身が思えるホームを目指して自己点検を重ねながら日々努力している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理事長夫婦の介護体験から「ささゆり」の花に寄せた、型にはめられない個別的な介護を目指した理念をつくっている。新任研修や会議等の場で話し合い理念に基づいた介護が実践できるよう努めている。	事業所理念は平易な言葉で表現されており、違和感なく管理者と職員に浸透し共有されている。日々の介護の実践がそのまま理念の実現につながっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事や催しもの等には、地域の人にも呼びかけて参加を促したり、散歩の時には会話をしたり、ゴミ置き場の清掃を行ったり等日常的な付き合いを行っている。	日常的なつきあいと共にクリスマス、敬老会等の行事の際には利用者と共に職員が地域を回り参加を促している。また保育園園児の訪問を受けての交流も行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	無料相談室を設けたり、カラオケルームの開放をすることで地域貢献しています。また、家族会・運営推進会議にて「認知症・認知症ケアについて」「介護方法」など基本的な話をしたりしている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	近隣住民、家族、民生委員、地域包括支援センターの職員等に出席してもらい、活動内容や評価への取り組み状況について報告をしたり要望等を話し合い、サービスの向上に活かしている。	概ね3ヶ月に1回、近隣住民・家族・民生委員・包括支援センター職員の出席を得て報告や話し合いを行いそこでの意見をサービス向上に活かしている。市職員の参加は現時点では得られていない。	参加者の都合等により調整が難しいことも考えられるが事前の周知な準備により2ヶ月に1回の開催が実現することを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターへ随時相談している。	市町村担当者については事業所から出向いて随時相談をしている。包括支援センターについては運営推進会議に出席してもらい相談をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が研修や勉強会にて「身体拘束廃止に向けての取り組みについて」理解を深め、取り組んでいる。玄関の施錠も必要最低限にし、できる限り鍵をかけないケアを実践している。	内部研修はもとより外部研修については必ず伝達研修を行い周知徹底を図っている。玄関の施錠は夜間(19:00～9:00)のみ行っている。また、安全のため身体拘束の必要が生じたときは必ず家族の同意を得ることとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を開き、全職員が常に意識の中にあり、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に地域福祉権利擁護事業の成年後見制度利用の入居者がおり、管理者を始め職員は制度の理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には、家族等はもちろん、本人にもできるだけ見学に来てもらい、双方が納得して入居していただくようにしている。退居の際も十分な説明を行い、理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者には日常の会話のほか、アンケートを実施し、意見や要望を表せる機会を設けている。また、家族会・運営推進会議等でも同様な機会を設けており、施設の外に意見箱も設置している。	利用者については日常会話を通してのくみ取りやアンケートの実施、家族については家族会や運営推進会議等の開催により意見表出の機会を確保している。また面会時にも職員との話し合いの機会を設けており、得られた意見を運営に反映させている。また外部への事業所だよりの発行もしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を定期的に行ったり、個人的に意見や提案を聞く機会(個別面談やアンケート実施)を設け反映させている。	定例会議は1～2ヶ月に1回開催している。またスタッフ会議・個別面談・アンケート実施は随時行い意見や提案を受けている。提案事項で実施すべきと決定したものは、1週間程度試してみて採用したり、さらに改良したり工夫している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や職員個々について把握し、個別に応じて仕事内容や労働環境・条件などの整備を行い、常に意欲を持って働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は職員育成の計画をたて段階に応じて研修を受講させている。又、外部の様々な講習などの案内を掲示し、希望者に受講させる等している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会等に参加し、地域の同業者と交流する機会を持ち、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	認知症の方は納得されずに来られる事も多いので、まずはご本人の話に傾聴することに努めている。また、アセスメントシート、情報提供表、センター方式を用いてニーズや不安等理解できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用まではご家族も不安が多いと思われるので、不安を取り除けるように何回も面談や電話連絡を行い、センター方式を活用するなどして「家族の思い」を聞き、信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	じっくり話を聞き、本当に必要としているサービスについて検討し、必要に応じて他のサービスとの連携も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者が一緒に過ごしながら、時間を共有し喜怒哀楽を共にしたり、お互いを思いやる心で支えあう関係作りをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	なるべく頻繁に来訪していただき、行事と一緒に参加してもらう等して多くの時間を過ごしていただいている。また、職員だけでなく家族と協力しながらより良い支援が行えるような関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室や店、昔ながらの友人など入居者一人ひとりの希望に合わせて、馴染みの人や場との関係が継続できるよう支援している。	家族や職員が同伴して馴染みの人や場所を訪問したり、友人の来訪やデイサービス利用の友人との交流等が行われており、馴染みの人や場との関係の継続を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の個性、他の入居者との関係などを見極めながら、良い関係が作れるように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、家族会や行事などに参加してもらうなど、関係を断ち切らない付き合いを大切にしている。又、必要に応じて相談や支援などを行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者が発した思いや要望などを運営者や職員がすぐにメモに書き取るなどして把握に努め、会議等で共有し支援に活かしている。又、食事の好みや行きたいところなどのアンケートなども行い検討している。	利用者本人の発言やアンケートを通して思いや意向を把握し、職員間で共有し支援に反映させている。また意向の把握が困難な場合は観察や家族からの聞き取りを通して把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人や家族等から聞き取ったり、センター方式を活用し、これまで利用されていた事業所より情報を提供していただくなどして、これまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ADL状況書、ケアプラン、センター方式などにより職員全員が把握できるようにしている。又、現状(日々の様子)や、気づきなどを個別記録に記入し、職員間で共有し把握できるようつとめている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員・家族・医療機関等とも話し合い一人ひとり具体的な介護計画を作成している。定期的な見直しはもとより、状態変化時には現状に即した新たな介護計画を作成している。	本人・家族・必要な関係者との十分な話し合いを通して得た意見・アイデアを活かした介護計画を作成している。特に往診の医師には時間をとってもらい意見を聞いている。定期的な見直しは6ヶ月毎であるが状態変化に応じて随時見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果、気づきなど、具体的に個別記録に記入し、情報を職員全員が共有しながら、実践や介護計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お花見や外出、温泉等の外出行事に積極的に取り組んでいる。また併設のデイサービスを利用したり、入居者による急な通院や買い物の付き添い等本人や家族の希望・要望に応じることが出来るよう心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアや中学生の職業体験の受け入れを行ったり、社協主催のふれあい作品展に出品するなど、地域資源を活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等の希望を聞き、納得している医療機関を受診できるようにしている。ホームとその医療機関との連携を蜜にし、適切な医療を受けられるよう支援している。	本人及び家族の希望により、外来受診・往診のいずれかを選択してもらっている。外来受診時は医師と面談し、往診医には時間をとってもらい密な連携を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームの看護職員及び併設しているデイサービスの看護職員により、日々の健康状態の確認や管理を行い適切な医療を受けられるように支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、家族や病院関係者と情報交換や相談を行い、早期に退院できるよう、又退院後についての話し合いを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重要事項説明書等に添ってホームでできること、できないことを説明し、「最期をどう過ごさせたいか」など本人や家族の思いを聞き話し合いを行っている。また、状況に合わせて家族や主治医、職員で十分に話し合いを進めながら対応・支援している。	入居時に説明の上、本人・家族の意思確認をしている。入院を要する場合を除き重度化や看取りについては事業所として対応していく方針であり、本人・家族・主治医・職員間で十分に話し合いながら支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急や事故発生時に備えて、随時利用者の状態に合わせて応急処置や初期対応の訓練を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月2回、入居者と一緒に避難訓練を行っている。その際職員は、消火・通報・救急救命方法の訓練も実施している。また、運営推進会議では地域の人々と災害時の避難場所の確認などを話し合っている。	夜間想定も含め月2回避難訓練を行っている。年1回は消防署立会いのもと消火器を使って訓練をしている。また、運営推進会議の際に地域の方と、火災や津波等災害の種類によって違う避難場所の確認を行い万全を期している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者を傷つけるような声掛けや対応はしないと職員は周知しているが、お互いを思いやるやさしい心で利用者の立場に立ち支援できているか、日常的に職員同士で確認をするよう心がけている。	定例会議・スタッフ会議での再確認は常に行っている。現場での気づきについては間を置かず職員同士で指摘をしあいながら利用者の人格の尊重とプライバシーの確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとり「わかる力」に合わせて説明を行い、思いや希望を表せるように、又、自己決定できるように支援している。また、家族にも嗜好や関心事、意見や希望などを聞き、本人の希望にそえるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	趣味活動を支援したり、天気の良い日には畑作業やお散歩、外出など、その日の希望にそって過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一緒にお化粧品や衣類を買いに出掛けている。職員と一緒にネイルケアをしたり、お誕生会にはお化粧品をして着物を着る等のおしゃれを楽しむ支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は入居者の希望を取り入れながら畑で採れた旬野菜を使い、季節感を感じられるようにしている。調理や準備、食事、後片付けを利用者と職員が一緒に行い楽しむことができるよう支援している。	1週間に1回のアンケート実施等で利用者の希望を聞き、献立に取り入れている。下準備や調理に参加してもらい、食事や後片づけを利用者と職員が共に行いながら食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの食事摂取量、バイタルサイン、排泄の様子等が一覧で見られるチェック表を使い、健康管理の支援を行っている。また、個々の状態に応じて水分チェック表を活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後うがいや歯磨き等の口腔ケアの支援を行っている。また、寝る前には義歯のポリデント洗浄を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつをできる限り利用しないで済むように、一人ひとりの排泄パターンを把握し、声掛けや誘導を行っている。又、下着・おむつ又はパットは、入居者一人ひとりのその時々状態にあわせて使い分けている。	チェックシートで一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけやトイレ誘導を行っている。重度化に伴いおむつ使用の利用者もあるがパッドの使用等工夫をしながらトイレでの排泄を促し、排泄の自立を目指して支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫(一汁一菜、野菜を多く取り入れる、水分補給など)や運動(散歩やラジオ体操など)の働きかけ等を行い便秘の予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者一人ひとりの希望にあわせ、時間帯、長さ、回数等、できる限りくつろいだ入浴ができるよう支援している。本人の希望に合わせて毎日入る事が出来る。	基本的には週3回の入浴を実施している。利用者の希望と職員の体制を勘案して、出来るだけ本人の希望する時間帯、長さ、回数を実現するよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	掃除や食事作り等日中の活動を通して、一日の生活リズム作りをしている。又、フロアでは畳の間、ソファ、椅子があり、入居者の表情を観察しその時々状態に合わせて落ち着く場所へ誘導している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬箱には服薬シートを貼り、薬の作用や用量を理解して、医師の指示通りに服薬できるよう支援している。又、個別の薬ファイルや服薬チェック表の活用、症状の変化の確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホーム内で入居者一人ひとりが楽しみごとや出番を見出せるよう、園芸、食器洗い、掃除、洗濯物たたみ、犬の世話、ちぎり絵、編み物等その人ができて得意なものはしてもらうように声かけし、場面作りを行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者がホームの中だけで過ごさず、積極的に近所に出かけて楽しめるように買い物や行楽などを企画したり、天気の良い日は散歩に出かけている。	事業所内外での散歩や家庭菜園での手入れは日常的に行われている。家族や職員が同行しての買い物や、温泉入湯ツアー等普段は行けない場所への外出を企画して全員の参加を原則に実施している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の能力に応じ、なるべく日常の金銭管理や買い物の支払い等を本人が行えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	プライバシーに配慮しつつ、自由に電話をしたり、手紙のやりとりができるよう支援している。また、絵手紙や年賀状などを作成し家族に送る等の支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間の調度や設備、物品や装飾には、いずれも一般家庭で使用しているものを使用している。衛生面に配慮し居心地良く過ごせるように支援したり、四季の花などを玄関・フロアに飾り季節感ができるように努めている。	共用の空間は一般家庭そのもので、まったく違和感がない。衛生面での配慮も行き届いており、玄関・フロアには四季の花がさりげなく飾られている。ほとんどの利用者がフロアで日中を過ごしており、居心地の良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中に、畳の間やソファがあり、入居者が一人になったり、気の合った者同士で自由に過ごせるようにしている。また、ユニット間も自由に行き来できるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながらなじみのある家具や置物、テレビ等持ち込んでいただき、配置にも配慮している。	本人や家族と相談の上使い慣れた家具や趣味の置物、ソファ等が配置され居心地よく過ごせる工夫がなされている。居室に持ち込まれた仏壇はさらに利用者がある人らしく過ごせるための存在となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの身体機能に合わせて、すべり止めや、要所の手すり等の設置、使い勝手の工夫等をしている。また、トイレや部屋の目印、暦や時計等を目につくところに設置し、混乱や失敗を防ぐ工夫をしている。		